

ケベック州の倫理・宗教文化プログラムと教師の職業的役割

降矢奈緒美

カナダ・ケベック州は、多様な民族・宗教の信徒が共存する多元社会であり、さらに州成立の過程で英系・仏系の民族集団も混在したカナダ最大の宗教課題を抱える州である。

本研究では、ケベック州で 2008 年に導入された倫理・宗教文化プログラム (Ethics and Religious Culture Program、以下 ERC) に関するこれまでの議論を整理すると共に、ERC プログラムで教師が果たす役割について概観する。ERC とは、ケベック州の学校で行われている科目の一つで、社会生活における規範などの内容を含む倫理分野と、種々の宗教に関する知識を含む宗教文化分野からなる科目である。

ケベック州は、歴史的に見るとフランスの植民地支配を受けていた時代を始まりとして、長きにわたってキリスト教の教会が絶大な影響力を保持してきた。その中で、カトリック教育委員会/プロテスタント教育委員会による宗派別の教育委員会の主導で道徳教育が行われてきた。しかし、時代と共に社会が変化し、宗派による教育が社会の多様化に対応できないとの危惧から 1960 年代の「静かな革命」と呼ばれるケベック社会の改革の中でこの体制は廃止され、英語とフランス語の言語別の教育委員会が設置された。以後、児童・生徒には言語を問わず共通の内容が教授されるようになった。

本研究では、文献研究と質問紙調査による事例研究を行った。前者では、ERC に関する学術論文、新聞記事、ERC で用いられる教科書を対象とした。後者では、ケベック州在住の ERC 担当教師 4 名に対し記述・選択式混合の質問紙を送付した。

ケベック教育プログラム (Quebec Education Program) からは、ERC が他者の認識と公益の追求を児童・生徒に身につけさせることが目的であり、同時に多様化する社会で他者を寛容的・開放的に受け入れ共生することができる市民を育成することを意図するものであることがわかった。教師は、そのために他の文化などについての情報を児童・生徒に提供する文化的仲介者の役割が求められているとともに、宗教を扱うこの科目では自分の信仰や価値観に一定の距離を置き、中立であることも求められている。

質問紙調査の結果として、回答した教師全員が、授業中の自らの言動の中立性に留意しているということが明らかになった。授業が実施しにくいと感じる分野としては、すべての教師が宗教文化分野を選択した。ここからは、教師が自分の宗教や価値観から距離を置くことと、客観的な視点で宗教文化について教授することの難しさが感じられたが、一方で教師は中立性の維持を常に意識しながら児童と接しているということも明らかになった。

現在の日本では宗教教育を忌避する傾向にあるが、日本でもケベック同様に多文化化する現代社会の潮流に対応できる児童・生徒の教育はなされるべきであり、ケベック州の ERC プログラムはその有用な事例であると言えるだろう。

(指導教員 溝上智恵子)